

## 留学報告書 ～留学を経て得たこと～

マドンナ大学  
経済学部生（長期）

私はミシガン州のリボニアという小さな町にあるマドンナ大学に留学しました。そこは高速道路と自然に囲まれた静かで少し田舎っぽい場所でした。マドンナ大学では、アメリカの文化を学んだだけでなく、ほかの国の文化や常識を多く学びました。その中でも日本と大きく違っていいものもあれば、あまり日本では通用しないようなものもあり私の中にあつた常識を大きく変えました。

マドンナ大学へ、はじめ着いた時の8月は暑くても35度くらいで湿度もかなり低かつたため、とても過ごしやすい場所でした。夜も湿度が低いので、慣れてしまえば扇風機なしでも快適に寝ることができる場所でした。

フォールセメスターが始まる直前に新入生用のイベントがありそこで、多くの友達を作ることができました。アメリカでは日本のように礼儀正しく挨拶とかではなく、フランクに自己紹介をし、趣味のことを話したり、スポーツをするのが一般的だと感じました。アメリカ人だけでなくほかの国から来た人もそのような友達作りをしていました。特にラテン系の国出身の人は積極的に話していたことを覚えています。私の友達もホンジュラス出身のラテン系の人だったので、とても話やすく、その上友達の輪を広めてくれました。この友達を作っていく中で日本が海外からどのように認識されているのかがわかりました。ミシガン州が自動車都市ということもあり、トヨタ車の認知度がとても高かつたです。そのほかでは日本食（主に寿司）や日本の代表的な文化の一つアニメなどの認識も高かつたです。一貫して日本への好感度は高く、一度は行ってみたい国の一つにされている子が多かつたです。

次に学業での違いです。まず大きな違いとしてはアメリカの大学は、初めは基礎的な授業を受けたうえで自分の入る学部を決めるというところです。日本では学部を決めてからその学部を受かるための勉強をするため、入り方が全然違いました。学校のシステムだけでなく、生徒の考え方も日本の主な大学生とは違っていました。私の友達は、基本的に将来やりたいことが決まっていそれを実現するためにその学部に入り、勉強をするといった確実な理由を持った人が多かつたです。中には自分の会社を立てているんな国を回りたいという大きな夢を持っている友達もいました。それに対し日本の大学生は入学当初からそのような夢を待っている学生は少ないと思います。多くの学生はただ必要な科目だけを取り、バイトに時間をかけることが多いと思います。私は、アメリカの学生のような意識高い人が多いほうが自分のためになると思います。しかしこの意識の違いが出るのは人の考えだけでなく学校の授業難易度も影響していると考えられます。なぜならば、マドンナ大学だけに限らずアメリカのほとんどの大学は中間、期末のテストが難しいからです。テストの時期が近くなるとジェネラルクラスを取っている友達は全員スタディールームか図書館でずっと勉強していました。いくつかの学部、特にナース科はテストの合格基準がとても高く中には90%以上で合格しないと次のステップに進めないというテストもありました。難しいため、1人で勉強する人もいましたがペアで問題を出し合うなど協力していました。テスト期間中はいつもパーティーをしている人もまじめに勉強していました。実際に目にして以前インターネットでみた「日本は大学に入学するのに苦労するが、卒業しやすい。アメリカは入学しやすいが、卒業するのに苦労する。」という内容が本当だったということを知りました。

集中して勉強をしているため、フリーの時は学校のことを忘れて自分たちが楽しむのに全力でした。暇があれば寮内のビリヤードを友達集めて大会を始めたり、夜にはテレビがある共有スペースでNetflixを使ってムービーナイトを開いたりしていました。マ

ドンナ大学はスポーツが活発で多くの友達がサッカー部だったので、試合があれば毎回応援に行っていました。サッカーのシーズンが終われば次はバスケットボールのシーズンになるのでほぼ毎日バスケットボールの試合を見に行っていました。



このようにスポーツ部が多いことから体を動かす人が多かったです。寮内にもジムがあったため、友達と通い続け最後の時期には週6でジムに行っていました。

祝日などのパーティーも多くありました。ハロウィンは、学校ではジャックオランタンを作るイベントがあり、ESLの授業内では仮装OKでした。ほかにもサッカー部主催のホームパーティーもありました。そのホームパーティーも自分が想像していたものとは大きく違い音楽を大音量で流し、みんなで騒ぐクラブのような雰囲気でした。もし日本の家でやれば、確実に近所迷惑で通報されるものでしたが、新しい体験をできて楽しかったです。個人の家で開かれるホームパーティーは、基本的にこのようなクラブ状態が多く、中には警察を呼ばれて注意を受けたことがある人もいるようで日本とのスケールの違いを知りました。

次はサンクスギビングデーです。この日は基本的に家族で過ごしターキーを食べるのが習慣のようでした。しかしほとんどの人がその日にあるブラックフライデーという大幅割引のセールを楽しみにしていました。その3日後のインターネットショッピング版のセールのサイバーマンデーを楽しみにしている人も多くいました。すべてのショッピングセンターはひどい人混みで、日本の初売りみたいな状態でした。

少しした後には冬休みになり、寮が閉まってしまうため友達とワシントンに行きました。そこは首都というだけあり地下鉄がしっかりしており、観光地も充実していました。しかし住んでいる人の違いなどはあまり感じられない都市でした。日本でいう東京だと感じました。しかし大きく違うのは地下鉄の綺麗さでした。どこの地下鉄に行っても手のひら大の大きめのネズミが走っていました。それを見て日本がどれだけ清潔な場所なのか再確認しました。

春休みには同様に寮が閉まってしまうため友達とフロリダのマイアミに行きました。そこは今まで行ったアメリカ国内とは違った雰囲気のところでした。住んでいる人の多くは高齢の人が多く、話す言語も英語とスペイン語が半分ずつのイメージでした。そのためアメリカ人の人というよりラテン系の人が多かったです。海に行っても音楽を大音量で流し、初めての人でも一緒にお酒や食事をするような人ばかりで驚きました。レストランもメキシカンだけでなくコロンビア料理があるような場所でした。

最後に、この長期留学をして私はアメリカ人だけではなく、様々な人種の人に出会い、多くの価値観や考え、文化を知りました。そのうえで自分を成長させるようなものを多く吸収できました。日本にいたるだけでは絶対に経験できなかったこともできました。これらの経験や友人との交流によって自分から行動しないと新しいことは生まれないし、これからは楽しむことができなくなると学びました。この学んだことをもって、これからの就職やそれ以外のことにもいかせられたらいいなと思います。もしまたアメリカに行ける機会があるようならばぜひ行きたいと思います。